

志村孝學編輯

更訂孝謙天皇御遷居緣起鈔 全

發行所

山梨縣甲斐國南巨摩郡奈良田村

外良寺



更訂孝謙天皇御遷居緣起鈔

甲陽外良寺住職志村孝學



山梨縣甲斐國南巨摩郡奈良田村大字奈良田ト申スハ
古本縣下山梨八代巨摩郡留ノ四郡外ニシテ山代郡奈良

一郡一村ニテ人皇四十六代 寶字稱德孝謙

ノ地ナリ抑其舊誌ヲ尋又ルニ天皇稱ハ阿

聖氏帝ノ女母ハ光明皇后不比等ノ女ナリ

内親王ト爲リ天平十戌寅年皇太女ト爲リ天

平感寶元己丑年七月御即位改元シテ天平勝寶ト曰フ

世十年壬位ヲ大炊皇子ト稱シ自ヲ祝髮ニ法護ヲ法基

ト稱シ當地ニ御遷居ナリ給フ時ハ天平寶字元丁酉年

リ甲辰年八月廿一日

帝ノ御孫舍人親王第七皇子即チ大炊皇子位ヲ爭フニ依
リ天皇都ヲ坐サセ吉野里ニ駐輦スル一一年餘リ適々壬
躰御惱ミアラセラレシ時キ法華經ヲ讀誦シ諸神佛工御
祈誓アラセ給ヘハ夢ニ老翁アリ甲斐國巨摩郡早川庄湯
嶋郷ニ靈湯之レ有リ諸病治セズト云フナシト告ケ忽
焉トシテ去ル此時天皇御感アリ再ヒ翁ノ再來ヲ得ニ
ヲ天御地臥シテ祈ラセ玉フ或夜翁再ヒ頭ル天皇老翁ニ
問フ何レノ神佛ナリヤ翁答テ曰ク安房國大福山日本寺
東方醫王藥師ナリ天皇夢覺テ以爲ク神傳ヲ得タリト之
ヲ官女ニ語ラセ給フ官女歡喜シテ曰ク御父聖武皇帝同
寺ニ藥師佛ヲ本尊トシ一千二百ノ佛像ヲ彫刻シ七堂伽
藍ヲ建立シ成就ノ節黃金五千貫目ヲ以テ供養ヲナシ御

母后ハ金襴ノ戸張ヲ獻シ且ツ永代天下泰平萬民快樂ノ
祈願之レ有ルヘキ旨詔アラセ玉フト陳レハ天皇御感斜
ナラス朕常ニ念スル処ノ法華經安樂行品ニ曰ク智慧ノ
光明日ノ照スガ如クナラン若シ夢ノ中ニ於テモ但々妙
ヘナル事ヲ見シ又藥王品ニ曰ク病ヒニ醫ヲ得タルガ如
クノ文符合ス依テ吉野里ヲ發輿アリテ天平寶字二戊戌
年五月尋テ此地ニ着シ給ヘ即チ御供奉ノ諸官ニ命シ假
ルニ宮殿ヲ營ミ御意ヲ慰ム而シテ靈泉ヘ御入浴シ給ヘ
ケレハ二旬ヲコヘザルニ經王貌相ノ如ク病魔全愈スル
テ靈夢ノ如シ依テ一刀三禮ノ藥師ノ像ヲ彫刻シ湯王大
權現ト祭り日々大乘妙經ヲ讀誦シ御座スル一八年又
天皇御惱ミノ時キ異人アリ外衣ト唱フ天皇ニ藥ヲ奉ス

未夕一周間ガラスシテ奇驗アリ適々彼ノ異人ハ奇異ナ
リト思シ召セハ忽チ異人頭レテ告ハ應神天皇ナリト告
ケテ去ル之レニ依テ天皇當地へ若宮八幡ヲ祭り氏神ト
ナシ曰ク此地郡ヲ山代トシ村ヲ奈良タト號シテ可ナラ
ン歟ニ山代郡奈良田村ト號ス天平神護元乙巳年再ヒ南
部ニ御還幸ノ際藤原黨土仇殿へ彼ノ異人傳法外良藥ヲ傳
へ並ニ御歌書物ヲ賜ハル之レヨリ二百六十年後萬壽元
甲子年八月四日奈良皇山外良寺ヲ創立シ外良藥傳法ヲ
寺ニ移シ其後故アリテ相摸國小田原駅ニ移リ外良屋ト
號シテ今尚現存セリ 天皇自ラ大炊王ヲ廢帝トシ四十
八代ヲ重祚シ給フ御父聖武皇帝奈良大佛殿其外諸寺社
御建立アリ又自ラ諸經中玉最在其上タル法華經ヲ御信

仰アラレタリ天皇前後在位十五年壽五十三神護景雲四
庚戌年八月四日西宮ニ於テ崩ス大和國添下郡佐貴郡高
野ノ山陵ニ葬ル此年光仁天皇即位シテ寶龜ト改元ス其
后村上天皇ノ威徳ヲ慕ヒ延曆三甲子年六月五日皇居ノ
跡ニ一字ヲ創立シ即チ天皇ノ法諱法基尼ノ尊像ヲ彫刻
シ奈良法皇尊ト稱シ奉ル以來當外良寺所屬ナリシカ明
治政府ニ至リ神佛分離ノ命令ニ基キ本社ヲ奈良皇大
神ト祭り祠官所屬トナシ尊像ハ佛体ナルヲ以テ當寺へ
移シ尚ホ奈良法皇尊ト勸請シ奉ル

孝謙天皇御詠歌

難波かたむすおぬあみも霞けり

うつるもくもる眺月夜小

考せられはいつもあつてん春を待

甲斐乃白根の聖比下草

来て見ればあつても奈良れと思へに

米のある木はいつくは也ある

古乃海のしる志也遺すとして

さしくる塩乃増す泉もあ

斯地七不思議ト習フルアリ曰ク第一御符水ト稱シテ皇
居ノ殿ニ御硯井アリ諸病ニ功アリ吞者ハ病即消滅スト
云フ此井ヲ鑿ル時キ稻荷明神ノ像出現ス今泥井稻荷ト
勸請ス第二塩池天皇御還幸ノ際殊外不自由ノ所故鎮守
若宮八幡宮へ御祈念アラセ給へハ奇哉一周間ナラスシ
テ御手洗池ヨリ塩涌出ス今猶ホ里人吸テ以テ醬塩ノ助

トス第三拱押子染池天皇民家ノ爲トテ祈ラセ玉フ今ニ
用ユ第四御手洗湯天皇若宮御参詣ノ節洗ハセ給へハ平
水湯ト變ス第五洗濯池何程アカツキテ毛落ザルモノナ
シ又色ノ變ル事ナシ第六片葉ノ葦天皇片葉ノ葦ヲサシ
給へハ今以テ片葉ノ葦生ス第七天皇御在居ノ地ヨリ早
川マテ七段アリ是奈良ノ七段ニ擬スルト是ナリ
水村大字奈良田ノ儀ハ天文弘治天正年中三度御朱印ヲ
賜リシ以来明治政府ノ地租御改正迄年貢其他無税ナリ
今其由緒尤ニ記ス

從奈良田郷中商賣之人ニ於テ諸役令免許者也仍テ如
件

天文十九庚戌六月三日

肩ニ九龍ノ朱印アリ

孝謙天皇 天平勝寶己丑七月即位治立十年法諱奉詔
法基尼當國山代郡奈良田遷居ノ由緒不可有相違因茲
如先規之山林畑民戸諸役令免許者也

弘治二年丙辰二月十日 信玄 花押

年号中凡龍ノ朱印アリ 奈良田村孫尤工門尉へ
定 肩ニ凡龍ノ朱印アリ

天文十九庚戌年以御印判從奈良田ノ郷中高賣之人諸
役御免許之上ハ今以不可変之由被 仰令者也仍テ如
件

天正九年己丑六月十九日 土屋右工門尉 奉之

奈良田之郷へ

前記ノ如ク御朱印ヲ賜リ其上條黨ノ苗字ヲ深澤トス

而シテ刀一腰ヲ拜領ス深澤孫尤工門子孫代々永ク名主
タリシガ后深澤順吉ニ至リ成規ニ依リ戸長ヲ拜命ス其
后故アリテ職ヲ辞ス明治十七年九月湯嶋奈良田村聯合
戸長ヲ湯嶋村ニ置ク依テ其役場ヲ湯嶋村ニ移シ村務ヲ
詢正ス今廿二年七月町村自治制實施ニ際シ湯嶋奈良田
ノ西村ヲ一村トシ政府ニ於テ更ニ奈良田村ト稱シ其昔
ヲ公布セラレタリ實ニ未盡ニ至ル迄テ天皇ノ舊跡村名
ト共ニ不朽ニ尊フト爾云フ

當寺ハ萬壽元 甲子年八月四日現寺地ノ南ニ創設シテ奈
良皇山外良寺ト稱シ真言密宗小室山ノ支流タリ矣文永
年間小室山主肥前法印ノ宗祖ト法議ヲ論難シ遂ニ改宗
シタルヲ傳聞シ本村居族條黨又右工門尉ハ頗ル法議ヲ

了也。才能者ナリシカ其大法論ヲ轉傳シ、
祖ノ御生像ヲ彫刻シテ本山開祖日傳聖人ノ開眼ヲ請
正和三甲寅年九月十三日今ノ境内ヲトシ之レニ祖師堂
ヲ建立シ而兼一村拳ヲ轉宗セシヲ以テ本山八世日寺聖
人ノ許ヲ得テ文明四壬辰年七月十五日外良寺ヲ此地ニ
移シ山號ヲ身榮山ト改稱セシ以テ明治廿四年迄テ四百
廿年曆垂三十九更一代ノ如ク宗法傳燈セリ
此欽古昔ヨリ傳來スルト雖モ殘簡蠹編ニ屬ス故ニ予
之レヲ慨嘆スル久シ之レニ依テ散佚ノ書ヲ集編シ去
ル明治十六年十月三日岁版局ノ上本欽岁版ニ来リシ
ガ今廿二年一月十日當寺類焼ノ際版木焼滅セシヲ以
テ今又更ニ訂正シ更訂孝謙天皇御遷居縁起欽ト題シ

奈良法皇ノ御高徳ヲ後世ニ知ラサシメシガ爲ニ之レ
ヲ再版ス世ノ法皇ヲ信スル諸氏ハ現世安穩後生善處
七難即滅七福即生ノ利益日々新ニシテ安産守護除疫
開運擁護ノ御普願無礙者也
更訂孝謙天皇御遷居縁起欽畢

明治廿四年八月三日印刷
今年全月五日出版

著作兼
印刷發行者

山梨縣平民

志村孝

甲斐國南上野





特67
405

019923-000-4

特67-405

孝謙天皇御遷居縁起鈔

志村 孝学/編

(更訂)

M24.8

ABH-0031

